

EUの歴史・課題は

高校生が欧州連合（EU）について学ぶ講演会が29日、神戸市長田区北町の神戸市防災コミュニティセンターであった。県立兵庫高校（山内茂弘校長）の生徒ら約210人が参加し、日頃なじみの薄いEUの歴史や課題などについて、専門家の話を聞いた。

専門家 実例交え話す

兵庫高生学ぶ

EUインスティテュート 関西（EUIJ関西）が主催し、朝日新聞社などが共催した。EUIJ関西はEUの教育研究機関として、EUの行政執行機関の欧州委員会の資金協力を得て、神戸大や関西学院大、大阪大が2005年に共同で設立。2月に高校生対象の講演会を大阪で開き、県内で

は今回が初めて。

開会のあいさつをした大阪大学の松繁寿和教授は「1国では解決できない問題が多い時代になり、先駆的な取り組みをしてきたEUから将来の日本を背負う君たちに学んでほしい」と生徒に呼びかけた。講演会では、駐日欧州連合代表部広報官ピセンテ・

J・ルナさんが、27カ国が加盟するEUの発展の歴史や統一市場について説明した。アイルランド大使館副代表のドナル・ケンナリーさんはEUのエネルギー政策を紹介。再生可能エネルギーへの取り組みや、原子力発電所がないアイルランドの実例を交えて話した。EUIJ関西代表で神戸



休憩時間に高校生から質問を受けるピセンテ・J・ルナさん（左から2人目）とドナル・ケンナリーさん（左端）＝神戸市長田区の神戸市防災コミュニティセンター

大大学院の吉井昌彦教授は、EU経済の現状について、ギリシャの財政不安定化などから説明した。講演後には質疑応答の時間があった。「EUの原子力発電について統一した政策がありますか」との質問

には、ケンナリーさんがドイツとフランスの政策の違いを紹介し、「各国が独自に決めているのが現状です」と答えた。「アジアの国でもEUに入れますか」との質問には、ルナさんが「個人的には加盟条件さえ

満たせば入れてあげたい」としながら、「決めるのは私ではないし、地理的条件から難しいでしょう」とユームアを交えて答えた。

高校2年生の東峻太朗さん(17)は「EUがバイオ燃料に取り組んでいると聞き、理系でもEUに関われると知ることができた」。得意の英語を生かして司会を務めた高校2年生のセルフ早良さん(17)は「EUの生の話が聞けて貴重な経験になりました」と話した。

（宮野拓也）